



別海町立西春別小学校 学校だより

か ら ま つ No. 7

平成27年7月15日発行 発行責任者 校長 野口 泰秀

自己表現力を育てる 一人間関係を高め、深めるためにー

校長 野口 泰秀

西春別小学校で感心することは、全校朝会や運動会などの行事で子どもたちが司会をしたり発表したりするとき、ほとんどメモなしで自分の話ができることです。先日行なわれました『七夕集会』でも多くの子が自分の願い事とその理由をすらすらと話すことができていました。また、先生方も日常の授業の中で子どもの発表の場を大切にして、継続して指導しています。

さて自己表現の原則は、「あいさつができる」「話ができる」「話が聴ける」という三つのことが揃うことだと思います。

- (1)あいさつができることについては、西春別小学校の子どもは立派です。朝のあいさつ、下校時のあいさつなど素晴らしい子どもがたくさんいます。いまさら言うことでもありませんが、あいさつは『心の窓』です。「いつでも、どこでも、誰とでも」の原則で、まず、自分から先にあいさつができることが大切なのです。
- (2)話ができるということは、自分の言葉で相手にわかりやすく納得がいく話ができることです。
- (3)話が聴けるということは、自分の言い分だけ主張するのではなく、相手が話しているときは聞き手にまわることができることです。自分の考えを相手に受け入れてもらうためには、相手に好意をもってもらうことが大切だと思います。先日もお話をさせていただきましたが、耳と目と心で聴くを実践して欲しいと思います。

この三つの態度をセットにして、自己表現力を育てることは、とりもなおさずコミュニケーションを通して人間関係を高め、深めることにつながっていくと思います。

交通事故に注意

小学校低学年の交通事故は、5月～7月に最も発生しやすいようです。学校でも、

- ①必ず右左を確認し、車が停止しているかを確認すること。
- ②自転車で二人乗りをしないこと。
- ③自転車で並走しないこと。
- ④「止まれ」の標識では、一度止まって左右の確認をすること。
- ⑤自転車に乗る時には、ヘルメットを着用すること。



このように注意喚起を促しておりますが、ご家庭でもお子さんが出かけるときに声かけをしていただくなど、よろしくお願いいたします。

メディアコントロール授業

2日(木)、教育委員会主催のメディアコントロール授業が3年生以上を対象として行われました。

NPO「子どもとメディア北海道」の中山通惠氏にお越しいただき、パワーポイントを使って、メディアのやりすぎが脳に与える影響などについてのお話を聴かせていただきました。ゲーム、テレビ、スマホ、DVDなどメディアにかける時間が多いほど脳のはたらきが鈍くなり、反面、脳を活性化させるためには漢字の練習、絵をかく、音読、おしゃべり、外で遊ぶなどが有効であることなど、わかりやすく説明してくださいました。授業の中のテーマを通して、家族の会話やふれあいの大切さについて話されていました。



七夕集会

3日(金)、七夕集会がありました。はじめに、七夕まつわるクイズを行ったあと、あらかじめ一人ひとり短冊に書いておいた願いを發表しました。「足が速くなりますように」「字がうまくなりますように」などの個人の願いもあれば、「世界が平和になりますように」というまわりの人のことを考えた願いをする人もいました。願い事の短冊は、笹の葉に飾られました。

そのあと星とりゲームや天の川シートをくぐり抜ける「あみなげた」の七夕バージョンなどのゲームを行いました。



指導主事訪問

8日(水)、根室局から指導主事、教育委員会から指導参事にお越しいただき、1・2年生の合同体育の校内研究授業を行いました。単元は「鉄棒あそび」です。

導入は、一般的な準備体操ではなく、「ねこちゃん体操」から始まります。「ねこちゃんがおこったフーッ! ハッ! ……」という歌詞に合わせて、子どもたちは



マットの上でポーズをとります。このあと行う鉄棒に必要な体の動きを取り入れた体操です。その後、2年生がリードしながら、グループごとに分かれ自分たちで話し合い活動を行い、本日のめあてを確認しました。

発表会は、2年生の司会で進められました。個人の新技発表の部では、これまで練習してきた技を發表します。練習中の技を披露した子どももいましたが、どの子どももやり終えた後は笑顔で、達成感や満足感を存分に感じている様子がよく伝わってきました。



授業後、職員の研修を行いました。主事、参事からは本校が研修として進めている取組のひとつである「表現する場、学びあう場の設定と工夫」について、研究成果が表れてきているとの指導、助言をいただきました。今後の研修に生かしていきたいと考えます。

本校では、あと3回研究授業を予定しております。そのうち1回は町の取組である「生き抜く力向上策定プロジェクト」の一環として行われた秋田視察での研修内容を生かした授業になる予定です。



いじめアンケートから

今年度1回目のいじめアンケートを6月に実施しました。結果をみると、いじめられていると感じている子どもが何人かいました。直ちに、学級で聞き取るなどして実態を把握すると、いじめと言えるものではなく、けんかの延長で人間関係がぎくしゃくしてしまったケースばかりでした。

本校の課題のひとつとして、「人の話が聞くことが不十分である、自分の気持ちや考えを人に伝えるのが苦手である、相手の気持ちを推し量れない」など、子どもたちどうしのコミュニケーションのあり方があげられます。

そのため話せばわかることでも意思疎通が不十分のために、仲たがいやけんかに発展してしまうことがあり、そのことをいじめと捉えてしまうことが起こります。

学校では、教育活動を通して、伝える力、聴く力、相手を理解しようとする心情を高めるために取り組んでまいりたいと考えています。

また、いじめに対しては厳格な態度で臨み、子どもたちが安心して楽しく通える学校づくりを目指していきたいと考えています。そして、いじめを起こさせない、見逃さないためにご家庭と学校が手を携えてまいりたいと考えております。

先に配布させていただいております学校評価についてご協力お願いいたします。お忙しいところ申し訳ございません。7月23日までお願いいたします。